

Junko news

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

特集 薬剤師について知る

Vol.82
2024/1



見つめているのは、患者さんの明日だ…

Saitama Prefectural Hospital Organization
Saitama Cardiovascular and Respiratory Center

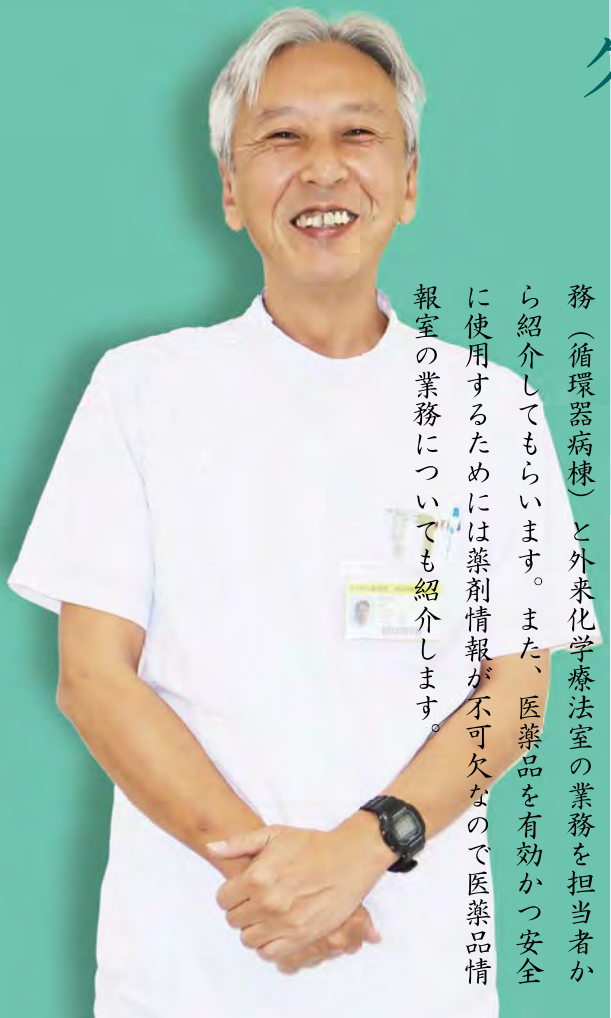
クスリあるところに薬剤師 薬剤部長 三宮 忠

循環器・呼吸器病センターがオープンしたときに薬剤師の人数は11名でした。令和5年現在にいたっては2倍以上の27名となっています。当時は外来処方も薬剤部で調剤し、窓口で渡していたので、薬剤師の仕事は薬局内がほとんどでした。外来の調剤が徐々に院外の保険薬局へと移るにつれて、業務の場が病棟などへと移っていき、いまでは一般8病棟に薬剤師を派遣し服薬指導などを行っています。

外来の化学療法室では抗がん剤の調製とお薬の説明、患者サポートセンターでは持参薬の確認や入院時中止する薬剤の説明など医薬品を扱うところであればどこでも薬剤師が関与するようになってきています。まだ薬剤師がいらない集中治療室や手術室などにも今後薬剤師を配置していきます。

医薬品の適正かつ安全な使用に貢献できるように「クスリあるところに薬剤師」を目指して業務を拡げたいと考えています。

さて、今回は薬剤師が行っている業務のうち病棟業務（循環器病棟）と外来化学療法室の業務を担当者から紹介してもらいます。また、医薬品を有効かつ安全に使用するためには薬剤情報が不可欠なので医薬品情報室の業務についても紹介します。



患者さんへの処方薬を準備しています。様々な確認作業を経て、患者さんに手渡ります。



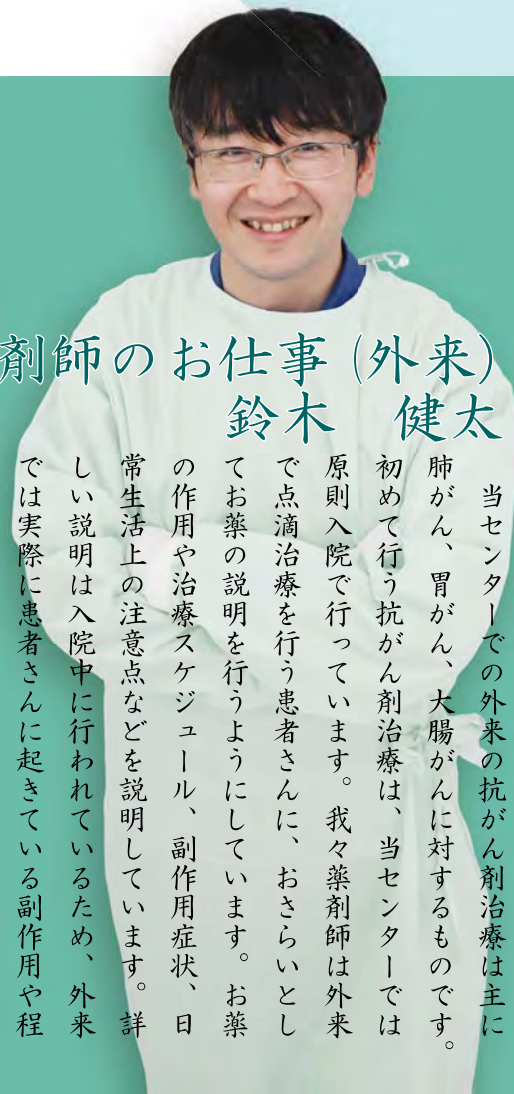
患者さんに使用する抗がん剤を調整しているところ。安全キャビネットを使用して作業しており、無菌性と調製者の安全性を確保しています。

抗がん剤治療に関わる病院薬剤師のお仕事（外来） 鈴木 健太

当センターでの外来の抗がん剤治療は主に肺がん、胃がん、大腸がんに対するものです。初めて行う抗がん剤治療は、当センターでは原則入院で行っています。我々薬剤師は外来で点滴治療を行う患者さんにおさらいとしてお薬の説明を行うようにしています。お薬の作用や治療スケジュール、副作用症状、日常生活上の注意点などを説明しています。詳しい説明は入院中に行われているため、外来では実際に患者さんに起きている副作用や程度の詳細な確認を心がけています。医師の診察や看護師の問診で十分聴取されていますが、薬剤師もその一助となるよう協働して確認することに努めています。

また、薬剤師の地域連携の取り組みとして、同意の得られた患者さんには保険薬局や他の医療機関を対象に抗がん剤治療の情報提供を行っています。情報提供を受けた保険薬局は、患者さんが受けている治療や副作用の内容、処方されたお薬の背景を知ることができ、お薬の説明に活かし、お薬をお渡しした後も患者さんの体調を確認し、必要に応じてその状況を医師に報告し、治療に役立てています。このように入院から自宅療養まで安心して治療を継続していただけるよう病院と地域で連携を行っています。

私たち薬剤師は医療の質の向上に寄与できるように日々努めております。これからもよろしくお願ひいたします。



普段働いていると患者さんから「病院にも薬剤師
いるんだね。」と言われることがたまにあります。
病院では主に入院されている患者さんの薬を供給、
管理するために薬剤師が働いています。その中で病
棟業務を行っており、病棟にも薬剤師が配置されて
います。病棟では主に心筋梗塞や狭心症、心不全、
弁膜症、不整脈の治療が行われています。循環器の
疾患では薬物治療が重要であり病棟で働く薬剤師は
患者さんに適切な薬物治療が提供出来るように薬の
管理を行っています。

今回は心不全治療と薬剤師の関わりについてご紹
介します。心不全治療は血圧、浮腫、体重の確認を
継続して行い、塩分制限を守り、薬を正しく服用す
ることで症状が悪化することを防ぎます。薬物治療
では心保護薬や利尿剤など種類が多く、薬の管理が
とても重要になります。心不全の再入院の原因とし
て薬の服用忘れが上位です。薬剤師は入院中の面談
でご自宅での薬の管理について聴き取りを行い、正
しく薬が飲めるように薬の管理について提案を行っ
ています。



病棟での業務 (循環器病棟) 大倉 知海

例えば、「おくすりカレンダー」や「一包化調剤」
です。飲み忘れが心配な方には1週間分の薬をセッ
トすることが出来る「おくすりカレンダー」を提案
しています。薬をシートから取り出すことが難しい
方や、おくすりの種類が多く飲み方を間違えてしま
いそうな不安がある方には用法ごとにおくすりを1
つの袋にまとめる「一包化調剤」を行っています。

今回は飲み忘れへの対策についての提案を紹介し
ましたが他にも、薬のはたらきについての説明や、
検査値や患者さんからの聴き取りによる副作用の確
認を行っています。

心不全の再入院予防のためには、退院後も適切な
薬の管理をすることが大切です。そこで退院の際に
はかかりつけ薬局へ向けた情報提供を行い、調剤薬
局の薬剤師と連携を図り、患者さんの再入院を予防
できるように日々努めています。薬について気にな
ることがありましたら気軽に相談してください。安
心して薬物治療を受けられるようサポートします。



患者さんに治療薬の説明などを行っています。



病棟カンファに参加して患者さんの治療内容を共有。

病棟でも活躍する薬剤師

病棟で患者さんに係るのは医師、看護師だけではなく、
ここでは、病棟での薬剤師の業務の1コマをご紹介します。



病棟ステーションで患者さんへの指導内容を記録します。



患者さんに薬の説明を行うために、様々な情報を整理しています。

医薬品情報の重要性について

医薬品情報室 糸部 浩之



情報化社会と言われる現代では、医薬品に関する情報があふれています。その中から本当に正しい情報を選ぶには、それを見極める力を養うことが必要です。しかし、一朝一夕にできることではないため、何かあれば薬の専門家である薬剤師がお手伝いします。

薬剤部 医薬品情報室 (DI室) では、医薬品に関する様々な情報を収集・整理し、患者さんや医療従事者に安全で安心な薬物療法を実施するための情報提供を行っています。

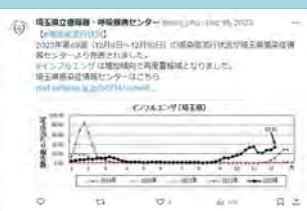
今はすぐにインターネットで情報を調べられる時代ですが、膨大な情報の中から必要な情報を取り出すことは大変です。それらの収集した情報を専門的に評価し、患者さんや医療従事者の求めに応じた資料に加工して提供するのがDI室の仕事です。DI室には、当院において採用されている医薬品に関する情報はもとより、採用されていない医薬品や、処方箋なしで薬局で購入することができる一般用医薬品 (OTC薬) の情報、医療・医薬品に関する書籍などを取り揃えています。そのため、医療従事者、一般の方からの問い合わせに対応可能です。

病院内の委員会では、医薬品の採用や削除を審議する薬剤委員会の事務局を担当しています。また院内で発生した副作用を収集し、製薬企業や公的機関 (厚生労働省、医薬品医療機器総合機構等) と連携して、副作用を報告するなどの業務を行っています。

薬はすべて化学物質で、正しく服用すれば薬になる一方で、間違った使い方をすれば、毒にもなります。くすりは逆さから読むとリスク (危険) となります。正しく使うという情報があるから薬になるのです。これからも全ての患者さんが安全で安心な薬物療法を受けられるよう努めていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

X (旧 Twitter) で情報発信中!

循環器・呼吸器病センターでは、11月からX (旧 Twitter) の運用を開始しました。病院からのお知らせのほか、結核病棟を持ち2類感染症に対応する医療機関として感染症流行情報も発信しています。Xを始めたのは、患者さんやご家族、地域の皆様に当センターを知ってもらいたいという意識からです。発信する情報が健康意識や当センターへの関心などのきっかけになればうれしく思います。皆様のフォロー、いいね、ぜひよろしく願います。



公式SNS はじめました

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立循環器・呼吸器病センター

循環器・呼吸器病センターの **Youtube**
もぜひご覧ください

〒360-0197
埼玉県熊谷市板井1696 TEL048 - 536-9900
<https://www.saitama-pho.jp/junko-c/>

